

神栖市介護予防強化推進事業  
取組報告

住民運営の支援メニュー

神栖市

長寿介護課 滑川 里美

# 神栖市の概況

## 基本情報

(平成24年4月1日現在)

神栖市の人口	92,248 人
第1号被保険者	16,328 人
65～74歳	9,256 人
75歳以上	7,072 人
高齢化率	17.70 %
神栖市の世帯数	35,732 世帯
一人暮らし	3,010 世帯
高齢者のみ	1,962 世帯

## 第1号被保険者の要介護認定の状況

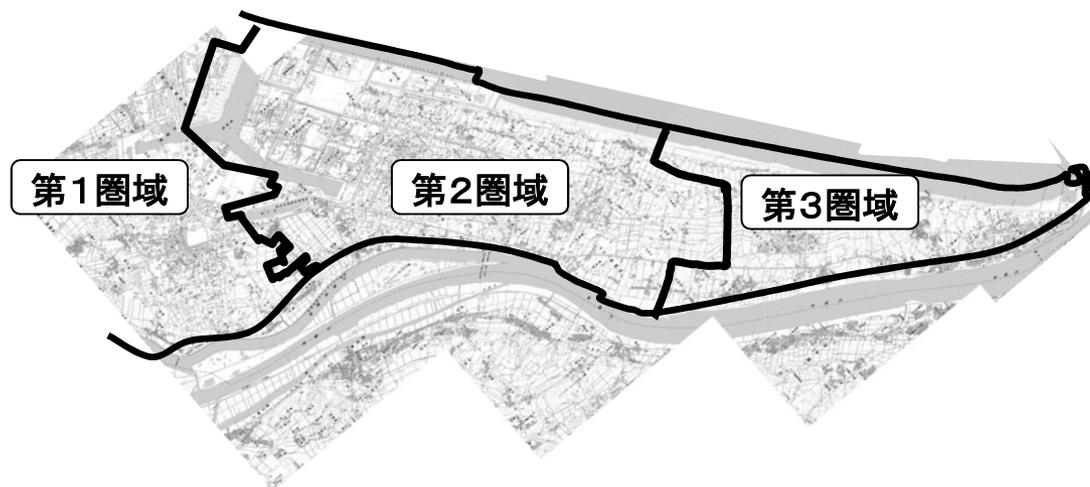
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
115人	238人	253人	358人	362人	388人	362人	2,076人



## モデル事業の実施地域の概要

対象地域	日常生活圏域3圏域のうち、2圏域(第1、第3圏域)			
対象地域の人口	62,201人			
対象地域の世帯数	24,881世帯(うち、一人暮らし 1,962世帯, 高齢者のみ 1,266 世帯)			
要支援・要介護認定者数	要支援1 87人	要支援2 165人	要介護1 170人	要介護2 248人

# 日常生活圏域ニーズ調査から見える地域の特徴



日常生活圏域	高齢者数	ニーズ調査の結果	対応の方向
第1圏域	5,368人	ひとり暮らし高齢者が多い	高齢者が活躍できる地域づくり
第2圏域	5,265人	継続的な介護予防の取組みが少ない	住民主体の活動を促進
第3圏域	5,847人	認知症高齢者が多い (地域の支援体制が必要)	地域の支援体制の構築

# 神栖市の介護予防ボランティア（これまで）

- 予防モデル事業を開始する以前から、市等が養成したボランティアが、それぞれに市の事業に協力するかたちで活動していた。
- 予防モデル事業をきっかけに、これらの団体に対し、一つの組織を形成して主体的な活動をやってみないかと呼びかけた。

	養成主体	養成数	活動数	活動内容
1 シルバーリハビリ体操指導士	茨城県 神栖市	132人	117人	市の介護予防事業の補助的関わり(8会場でシルバーリハビリ体操の教室を実施)
2 えがおあっぷサポーター (介護予防教室のボランティア)	神栖市	82人	35人	市の事業の補助的関わり (うつ・閉じこもり予防教室、転倒予防教室、水中ウォーキング教室の補助)
3 かみす やすらぎさん	神栖市	157人	26人	市の地域支援事業の一環として 認知症高齢者の見守りと介護者支援

# 住民の主体的活動が動き出す過程（住民との合意形成）

H24. 7月～8月 市が、モデル事業説明会を開催

- 市が、介護予防ボランティア、社会福祉協議会、転倒予防教室委託事業者（通所サービス事業者）等に参集を呼びかけた。

↓

- 介護予防ボランティアを中心に「やってみよう！」の声

9月 市が、助け合い活動の実践講演会を開催（計3回）

- 講演会終了後、有志で住民組織づくりの話し合い

『介護予防推進連絡会かみす』設立

- 介護予防ボランティアを中心とした任意団体が立ち上がった
- 地域の居場所となる『場所』探し

42人	男性	14人	年代	50歳代	3人
				60歳代	26人
				70歳代	11人
	女性	28人		80歳代	1人

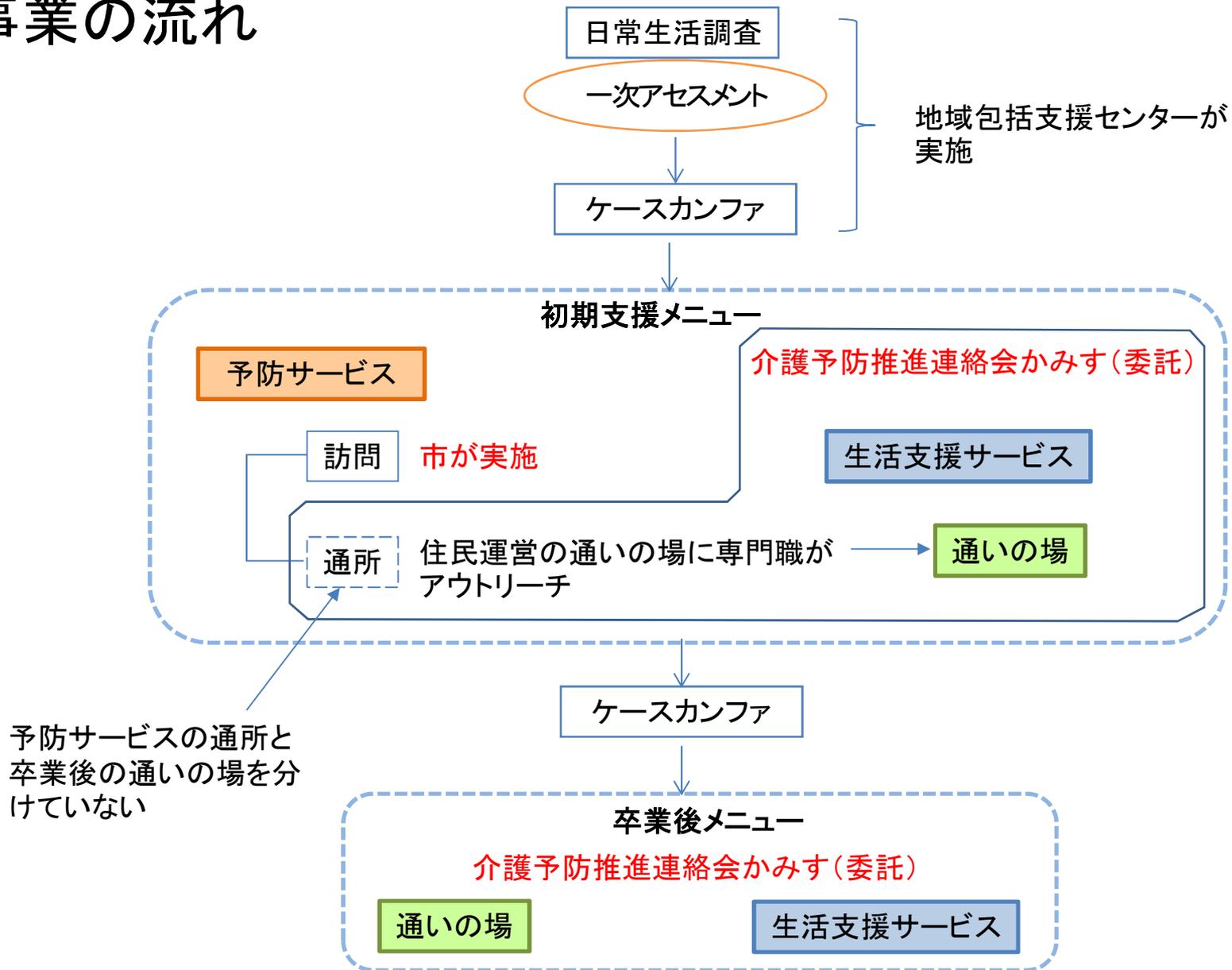
10月 市が、先進地視察と研修会を開催（計4回）

- 夢のみずうみ村、みんなの家「ぱお」
- 行政は黒子となって住民力アップへの支援

11月 居場所の開設（2カ所）

- みんなの家「かもめ」……空き家となった民家
- みんなの家「栖」……空き店舗

# 事業の流れ



# 支援メニュー (H24. 11. 30開始)

支援メニュー		実施 頻度	1回当たりの時間	利用料金	内容
予防 サービス	専門職の訪問指導	週1回	30分～60分	無料	保健師、栄養士、OTの訪問
	※初期支援メニューとしての通所は用意せず、通いの場にOTがアウトリーチしている。 OTの関与 1会場につき、月4回程度				
生活支 援サー ビス	えぷろんサービス	週1～2 回	15分～	15分50円	出来なくなって困っていることのお手伝い
卒業後 の通い の場	みんなの家 栖	週2回	半日コース 一日コース	半日200円 一日400円	商業用空き店舗を借用。男性高齢者を地域に出す多様なプログラム
	みんなの家 かもめ	週1回	同上	同上	住宅地の一軒家を借用。認知症の人でもできることを一緒に、

## 利用実人数(H25.2月現在)

	一次予防 事業対象者	二次予防 事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	計
えぷろんサービス	0人	0人	0人	3人	1人	0人	4人
栖	1人	1人	3人	2人	0人	1人	8人
かもめ	0人	0人	1人	3人	3人	1人	8人

# 介護予防推進連絡会かみすの活動の実際

みんなの家「栖」……空き店舗を利用



# シルバーリハビリ体操



## おしゃべり



## お雛様づくりを楽しむ



## 麻雀を楽しむ人も



# みんなの家「かもめ」……空き家を利用



# 手作りケーキでクリスマス会



# 一緒にストレッチ



# 豆まき



# モデル事業を通して見えてきた良い変化

- 利用者は  
受け身的だった姿勢が、能動的になってきた  
(やりたいことを口にするようになった)
- ボランティアに参加している住民は  
得意なこと(編み物・大正琴・書道など)を役立てる場ができた
- 地域包括支援センターは  
多職種によるケースカンファレンスを通じてアセスメントの力が  
ついてきた

◎問題が発生した時がステップアップへの機会

## 現時点の課題

- 行政側が、利用者の基本情報を、どこまでボランティアに提供してよいものか。（何を、どこまで、どのように）
- 閉じこもりがちの人（特に男性）が、通いの場の利用がすすまない。（出かけることに抵抗の少ない女性の利用が多い）
- ボランティアの抱える問題  
ボランティアの組織体制  
（「責任」に関する意識の相違、情報の共有の仕方など）
- 事業の組み立てに関して
  - 予防サービスの「通所」と「通いの場」を分けるべきか（既存の転倒予防教室を「通所」と位置づけるかどうか）
  - 介護サービス事業所のリハ職の理解と協力を得るにはどうするか
  - シルバーリハビリ体操教室を住民の主体的活動に発展させたい。